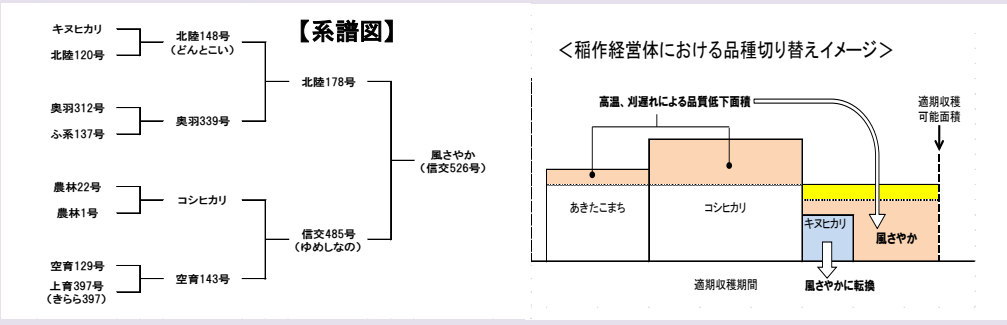


【全体概要】

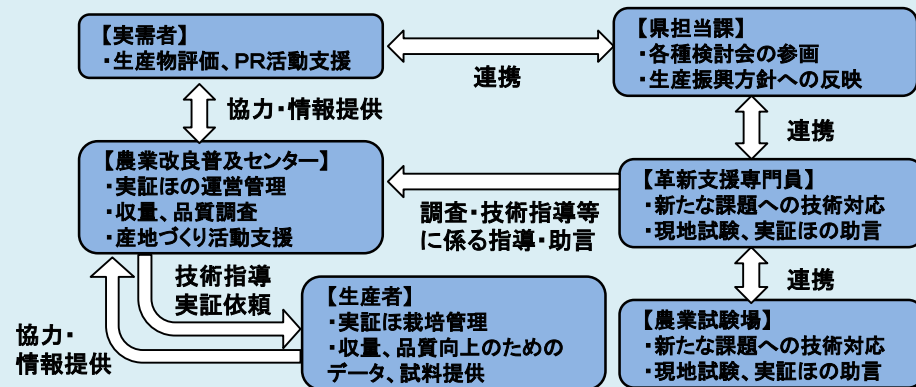
水稻栽培品種が「コシヒカリ」に偏重している中、近年では登熟期間の高温による胴割粒等の発生により、1等米比率の低下が課題となっている。このため、高温登熟障害を回避する良食味品種の普及が望まれており、主力品種と収穫適期が重複しない晩生品種として「風さやか」を推進する。

新品種・新技術等の概要

- 「風さやか」は「キヌヒカリ」に比べ以下の特徴がある。
- ア 出穂期で3日、成熟期で4日程度遅く、高温時の登熟を回避しやすい。
- イ 「キヌヒカリ」と比べ倒れにくい。
- ウ 「キヌヒカリ」対比108の玄米収量が得られる。
- エ 「キヌヒカリ」と比較して、いもち病に強い。
- オ 炊飯米の食味は「キヌヒカリ」より優り、「コシヒカリ」に近い良食味である。

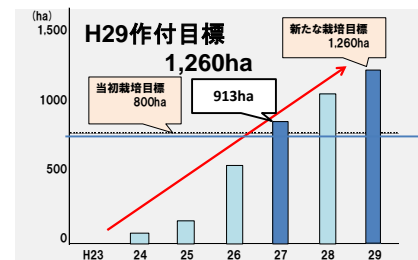


コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

1. 実績
 - ・栽培面積の拡大：H25年度 182ha → H27年度 913ha
 - ・現地実証ほの設置による栽培マニュアル（H28年度暫定版）及び現地指導指針（5カ所）の作成
 - ・「風さやか」推進協議会の設立（H28.1.29）による販売推進体制の構築
2. 今後の展開
 - ・栽培マニュアルのブラッシュアップによる良食味生産
 - ・栽培面積拡大による流通量確保
 - ・協議会による「風さやか」同一コンセプト販売でのブランド確立。



主な取組内容

- ・現地実証ほの設置
県下の主要推進地域4カ所に、栽培モデルとなる実証ほを設置。
- ・品質・食味分析の実施と評価のフィードバック
100サンプルの品質・食味を分析。産地、生産者間の品質差を検証。各生産者への結果送付し、高品質生産への誘導を図った。
- ・栽培技術検討会の開催
食味向上のための施肥体系、適期収穫判定等について検討。
指導者対象研修 1回 生産者対象研修 5地区6会場
- ・協議会体制による推進
コンソーシアム候補者による「風さやか」推進協議会発足(H28.1.29)